

小 学 校

平成 2 4 年度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究仮説	2
IV	研究の方法	2
V	研究構想図	3
VI	研究の内容	
1	調査研究	4
2	内容Aと内容Dを軸とした年間指導計画の開発	5
3	検証授業	8
VII	研究の成果と課題	24

研究主題 自分の成長を喜び、生活をよりよくしようとする児童の育成
～「A家庭生活と家族」と「D身近な消費生活と環境」を
他の内容と関連付けた題材構成の工夫を通して～

I 研究主題設定の理由

今日、新しい知識や情報があふれ、グローバル化が進む中、様々な人々との共生や協働が必要とされている。また、東日本大震災からの復興という大きな課題に直面し、家庭や地域の絆を深め、協力し合う地域社会づくりの大切さがあらためて認識されている。

家庭は、児童が育つ場であり、家族が健康で安心して生活するための場所であるとともに、安心して生活できる地域づくりの基盤でもある。家庭が役割を十分果たせるようにするために、家族の一員としての資質や能力を高める家庭科の役割は極めて重要となっている。こうした資質や能力は、家庭の仕事や生活時間の学習、身近な消費生活や環境を意識した学習、衣食住などの実践的・体験的な学習活動等を通して身に付くものである。また、児童が自分の成長の喜びを実感するのは、家族に褒められたり、喜んでもらったりしたときであることが多く、家族の存在を切り離すことができない。そのため、学校で身に付けた基礎的・基本的な知識や技能を、家庭で更に発展させ、実践につなげられるように、題材構成を工夫しようと考えた。更に、衣食住の実践では必ず消費生活や環境の問題が関わってくる。そのことを絶えず意識させることにより、家庭科の学習が実際の生活により近いものとして、総合的に捉えることができるようになり、より効果的な学習が展開できると考えた。

前回（平成 22 年度の教育研究員小学校家庭）の研究においては、これまで以上に家族や家庭に密接に関わりながら学習させることを意識し、内容 A（1）を中核として 2 年間を見通した計画を立て、発達段階を踏まえた指導法が提案された。本研究では、前回の研究を発展させ、「A家庭生活と家族」・「D身近な消費生活と環境」を他の内容に関連付けた題材構成をすることによって、自分の成長の喜びを感じ、自ら生活をよりよくしようとする児童の育成を目指すこととした。

II 研究の視点

1 題材構成の工夫

- ・「A家庭生活と家族」と「D身近な消費生活と環境」を他の内容と関連付けた題材構成の工夫をする。

2 家庭との連携

- ・家庭での実践を意識付けるワークシートの工夫をする。
- ・家庭科のねらいや学習内容について、学年・学級だより、家庭科だより等を通して家庭に情報提供し、家庭での実践への協力を呼びかける。

3 言語活動の充実

- ・衣食住など生活に関わる様々な言葉を使い、実感を伴って表現する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動を充実させる。

4 評価の工夫

- ・題材の目標を明確にし、評価規準を設定する。特に内容Aと内容Dを意図的に関連付けた課題では、内容ごとの評価規準を明確に示す。題材の評価規準と、視点として踏まえておきたい内容を明確にする。
- ・「創意工夫」の評価については、よりよい生活を目指して課題を解決するための思考力、判断力、表現力をどのように捉えるか、より具体化する。
- ・教師用ワークシートに評価の観点を記載し、合わせてA評価の評価規準及びC評価の児童への支援を具体的に示すことで、評価に活用できるよう工夫した。

Ⅲ 研究仮説

児童は、家族への思いが強く、家族が喜んでくれることで自分の成長の喜びを実感することが多い。また、衣食住の実践には、必ず内容Dが関わってくるので、そこを理解していないと自信がもてず、家庭での実践につながりにくい。児童が自ら工夫し家庭で実践していくために、内容A・Dを他の内容と関連付けていくことは非常に重要であると考え、研究仮説を次のように設定した。

内容Aと内容Dを意図的に関連付けて課題提示することによって、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や実践化につながり、工夫して実生活に活用できる児童が育つであろう。

Ⅳ 研究の方法

1 基礎研究

先行研究（平成22年度教育研究員小学校家庭）の検討、文献研究
内容A・内容Dを軸とした年間指導計画、評価が見取りやすいワークシートの検討

2 調査研究

調査時期 平成24年7月
調査対象 都内公立小学校4校において5・6年生児童647名に実施

3 検証授業

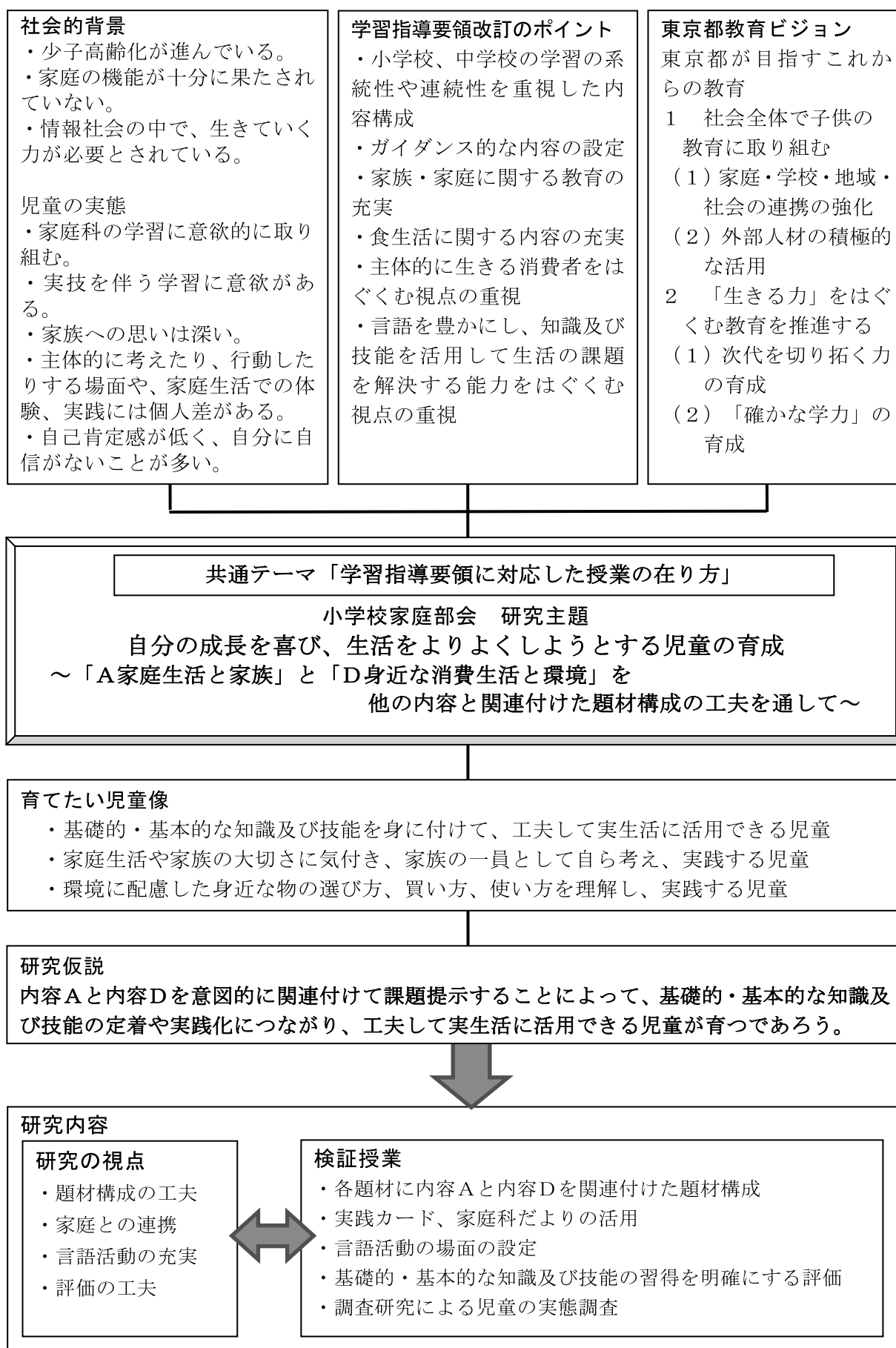
第1回検証授業 平成24年10月4日（木）
授業者 八王子市立宇津木台小学校 小作 綾子
第6学年 題材名「今日の食事はまかせてね」

第2回検証授業 平成24年10月26日（金）
授業者 板橋区立金沢小学校 木津 紫
第6学年 題材名「家族も喜ぶ 生活を楽しむ物を作ろう」

第3回検証授業 平成24年12月13日（木）
授業者 文京区立窪町小学校 村上 律子
第5学年 題材名「買い物と暮らしを考えよう」

第4回検証授業 平成25年2月12日（火）
授業者 練馬区立北町小学校 今川 文子
第5学年 題材名「毎日の食事はおいしいね」

V 研究構想図



VI 研究の内容

1 調査研究

(1) 調査の概要

① 調査の目的

- ・学習した内容の定着の度合いや家庭での実践の頻度について実態を把握するため
- ・家庭での実践の促進要因と阻害要因を把握し、指導法工夫の手がかりとするため

② 調査時期 平成 24 年 7 月

③ 調査対象 都内公立小学校 4 校において 5・6 年生児童 647 名に実施

④ 調査の内容

- ・「ご飯の炊き方」「玉結び・玉留め」「整理・整とん」等の 25 項目について、実践に対する自信の度合いを「一人でできる」「ちょっと自信がない」「一人でできない」の 3 件法で調査した。また、同じ 25 項目について、家庭での実践の頻度について「日常的に実践している」「2～3 回実践した」「宿題しかやっていない」「実践したことがない」の 4 件法で調査した。これらの項目を主な内容 A～D に整理して分析を行った。
- ・家庭科で学習したことを家庭で実践した理由（促進要因）と、実践しなかった理由（阻害要因）について、選択枝式（複数回答）で調査した。

(2) 調査結果の分析と考察

① 実践に対する自信の度合い

学年別に比較すると、既習事項の多い 6 年生の方が「一人でできる」と回答した児童が多く、家庭科の学習を通して実践に対する自信が育まれていることが分かる（グラフ 1）。内容 A～D のいずれにおいても、同様の傾向が見られた。

しかし項目ごとに見ると、5 年生が学習して間もない「いろいろな縫い方」「玉結び・玉留め」等の項目では、5 年生の方が「一人でできる」と回答した児童が多かった（グラフ 2）。

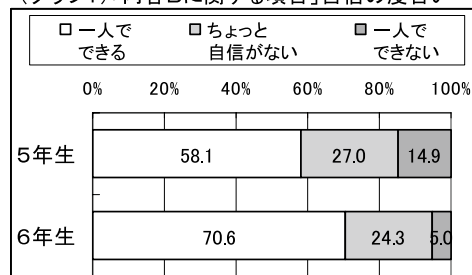
このことから、知識や技能の定着を図るには、繰り返し学習したり実践したりすることが大切である。

② 家庭での実践の頻度

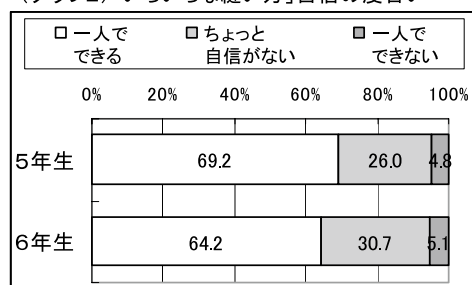
学年別に比較すると、既習事項の多い 6 年生の方が「実践したことがない」と回答した児童は少ない。しかし、「日常的に実践している」の回答には学年差はあまり見られない（グラフ 3）。内容 A～D のいずれにおいても、同様の傾向が見られた。

このことから、日常的な実践につなげるには、学習内容の定着を図ることに加え、更に指導の工夫を図る必要がある。

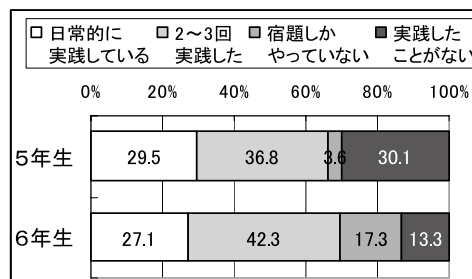
（グラフ1）「内容Bに関する項目」自信の度合い



（グラフ2）「いろいろな縫い方」自信の度合い



（グラフ3）「内容Bに関する項目」家庭での実践状況

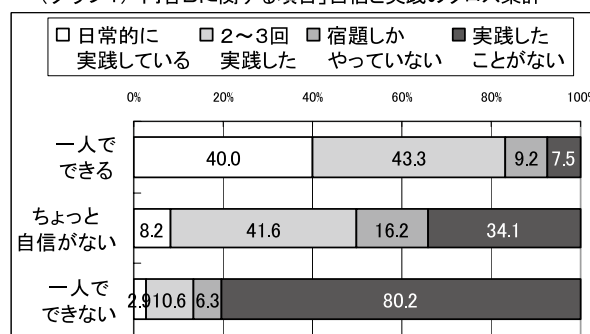


③ 実践に対する自信の度合いと、家庭での実践の頻度の関連

実践に対する自信の度合いと、家庭での実践の頻度をクロス集計した結果、自信のある児童ほど家庭実践の頻度は高いという相関関係が見られた（グラフ4）。内容A～Dのいずれにおいても、同様の傾向が見られた。

このことから、家庭での実践を促進するためには、基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図る必要がある。

（グラフ4）「内容Bに関する項目」自信と実践のクロス集計

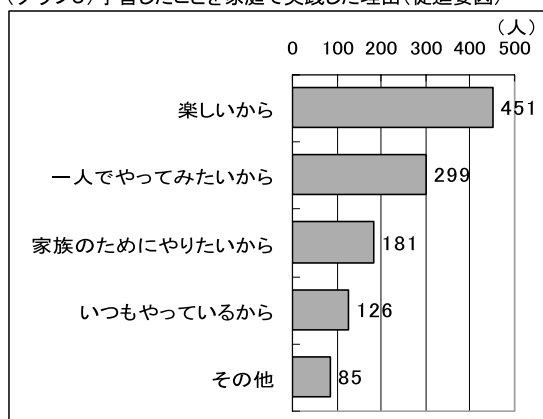


④ 家庭での実践における促進要因と阻害要因

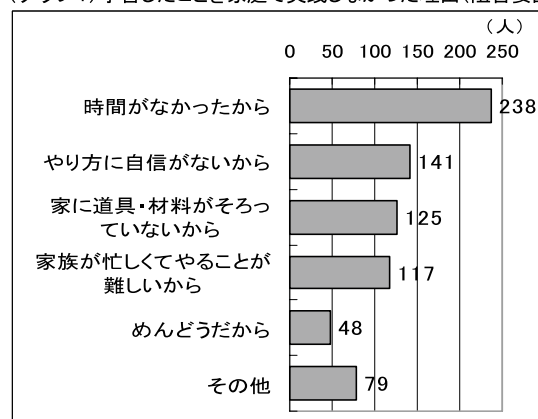
促進要因として、「楽しいから」「一人でやってみたいから」という理由が上位を占めている。楽しく学習したことが実践への動機付けとなり、身に付けた知識や技能をさっそく活用したいという姿勢につながっていると考えられる（グラフ5）。

一方、阻害要因としては、「時間がなかったから」という理由が上位を占めている（グラフ6）。わずかな時間でも有効に活用して実践できるように、実践意欲を喚起する手だてを工夫する必要がある。また、「やり方に自信がない」ことについては、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図り、実習や製作を通して成功体験を積み重ねることが、克服に向けた手だてになる。そして、「家に道具・材料がそろっていない」「家族が忙しくてやるのが難しい」ことについては、保護者と連携して、学習したことを実践できる環境作りや、繰り返し家庭での実践を促す手だてを工夫していくことが必要である。

（グラフ5）学習したことを家庭で実践した理由（促進要因）



（グラフ6）学習したことを家庭で実践しなかった理由（阻害要因）



2 内容Aと内容Dを軸とした年間指導計画の開発

本研究では、内容Aと内容Dを軸として年間指導計画を見直し、2年間を見通した題材配列を行った。5年生の「毎日の食事はおいしいね」は、「買い物と暮らしを考えよう」の後に学習させた方が、内容Dについての理解がより深まると考え、題材配列を工夫した。

また、各題材について、内容Aと内容Dについて「基礎的・基本的な習得内容」として評価する内容を具体化し、更に指導する側が意識して踏まえておくべき事項を「視点」として表記した。

内容Aと内容Dを軸とした年間指導計画【5年生】

第5学年 題材名	ガイダンス	家庭生活を見つめよう ①見つめよう わたしと家族の生活 ②始めよう 自分でできる仕事 ③考えよう 地域の人とのかかわり	楽しい生活をぬってつづろう ①見つめよう 身の回りの布製品 ②楽しく作ろう ミシンを使って ③楽しく使おう 作った作品	物を生かして住みやすくしよう ①見つめよう 身の回りの物 ②身の回りを気持ちよく整えよう ③物を生かして生活をしよう	買い物と暮らしを考えよう ①見つめよう お金の使い方と物の選び方 ②計画的に買い物をし、ミニパーティーを開こう ③買い物とミニパーティーを振り返ろう	毎日の食事はおいしいね ①見つめよう 毎日の食事 ②作ろう ご飯とみそ汁 ③考えよう 食べることの大切さ ④作ろう 家族も喜ぶご飯とみそ汁 ⑤報告会をしよう 家庭での実践	ふり返ろう これまでの学習
A	時間	1	14	7	8	1	1
	基礎的・基本的な学習内容	第4学年までの学習を振り返り、家庭科の学習に興味を持ち、これからの家庭科学習に見通しを持って意欲的に取り組もうとしている。 A (1) ア	①自分のこれまでの生活を振り返り、家族と家庭生活の大切さに気づき、家族に協力しようとしている。A (1) ア ②③自分や家族の1日の生活を振り返り、家庭の仕事を積極的に分担しようとしている。A (2) ア イ (3) アイ	③自分の生活と身近な環境とのかかわりに関心を持ち、ごみを減らして物や環境を大切にしたい。 A (3) イ	①自分の生活とのかかわりから、物やお金の大切さに気づき、使い方を振り返ろうとしている。A (2) ア ②身近な物の選び方や買い方に関心を持ち、適切に買い物をしようとしている。A (2) ア ③買い物体験を通して、物やお金の計画的な使い方に関心を持ち、適切な買い物や環境に配慮した買い物について考えようとしている。A (2) ア	②日本の伝統的な日常食であるご飯とみそ汁の作り方に関心を持ち、調理しようとしている。A (2) ア	これまでの家庭科の学習を振り返り、できるよくなったことを具体的に思い浮かべながら、自分の成長に気付いたり、喜びを感じたりしている。A (1) ア
D	視点		①身の回りで使われている布製品に関心を持っている。 A (2) ア ③製作した物を、生活の中で生かそうとしている。A (3) ア	①生活している場所と目を向け、身の回りの物の持ち方や置き方などを見直そうとしている。A (2) ア ②整理、置き場所決定、整とん、そうじに関心を持ち、身の回りを住みやすくしようとしている。A (2) ア ③身の回りを気持ちよく整え、物や環境を大切にしたい生活を工夫する。 D (1) ア (2) ア ③自分の生活を見直し、環境に配慮したものの使い方や始末の仕方などについて理解し、実践する。 D (1) ア (2) ア	①普段の生活を振り返り、自分の生活とのかかわりから、物や金銭の計画的な使い方について考える。D (1) ア ②購入しようとする物の目的、品質、価格などを考えて選び、適切な買い方ができるようになる。D (1) イ ③買い物体験を通して、物や金銭の計画的な使い方ができたか、適切な買い物ができたか話し合う。D (1) イ ③環境に配慮して買い物が工夫できる。D (1) ア	②必要な材料の選び方・購入の仕方を考える。D (1) イ	
	基礎的・基本的な学習内容		②布を無駄にしないよう型紙の置き方を工夫する。 D (2) ア				
	視点		②家族が働くことによって得られる金銭の大切さに気付く。D (1) ア ②環境に配慮した片付けの仕方を工夫している。 D (2) ア			②とぎ水が汚れを落とすやすすぐめ取っておくようにする。D (2) ア	

内容Aと内容Dを軸とした年間指導計画【6年生】

第6学年	食事と生活のリズムを見直そう	さわやかな生活を工夫しよう	今日の食事はまかせてね	家族も喜ぶ生活を楽しむ物を作ろう	暖かな生活を工夫しよう	これからのわたしの生活に向けて
題材名	①ふり返ろう 毎日の生活 ②見直そう 朝食のとり方 ③考えよう 健康な生活	①見つめよう 夏の暮らし ②工夫しよう 衣服の着方と手入れ ③実践しよう 快適な夏の暮らし	①考えよう 家族が喜ぶ食事 ②工夫しよう 1 食分の献立 ③もっと楽しくしよう 毎日の食事	①家族も喜ぶ生活を楽しむ物を考えよう ②形にしよう わたしの思い ③使って確かめよう わたしの作った物	①見つめよう 冬の暮らし ②工夫しよう 暖かさと明るさ ③実践しよう 快適な冬の暮らし	①伝えよう わたしの気持ち ②もうすぐ 中学生
A	時間	12	8	12	6	4
	基礎的・基本的な習得内容	①毎日の生活リズムをふり返り、整えようとしている。A (2) イ ②朝食の大切さに関心を持ち、朝食をとったり、おかずを調理しようしたりとしている。A (2) イウ ③食事の大切さを意識して、家族や友達と楽しく食事をしようとしたり、生活のリズムを整えようとしている。A (2) イ	③自分にできる夏を快適に過ごすための暮らしを实践しようとしている。A (3) イ	①家族が喜ぶ生活を楽しむ物を決めることができる。A (2) ア (3) ア ③製作した物を積極的に活用し、よい点や改善点を考えようとしている。A (1) ア (3) ア	③自分にできる冬を快適に過ごすための暮らしを实践しようとしている。A (3) イ	①お世話になった人々たちへの感謝の気持ちを伝えようとしている。A (1) ア (3) アイ 2年間の家庭科学習で学んだことを、積極的に生活に生かそうとしている。A (1) ア (3) アイ
D	視点		①暑い夏を健康でさわやかに暮らすようとしている。A (2) ア ②衣服の働きを意識して、着方を考えようとしたり、衣服の手入れや洗濯に関心を持ち、手洗いや洗濯しようとしたりしている。A (2) ア	①意欲的に布を用いた製作計画を立てようとしている。A (2) ア (3) ア	①季節の変化に合わせて生活の仕方に関心を持ち、寒い冬を健康に快適に過ごそうとしている。A (3) イ ②採光や照明の仕方、暖かい住まい方に関心を持ち、寒い冬を健康で快適に過ごそうとしている。A (3) イ	②2年間の家庭科学習で学んだことを、積極的に生活に生かそうとしている。A (1) ア (3) アイ
	基礎的・基本的な習得内容	②必要な材料の適切な選び方、購入の仕方を考える。D (1) イ ②衣服の手入れの必要性がわかり、環境を考慮し適切な洗剤の量で洗濯をしている。D (2) ア ③環境に考慮し暑い夏の快適な過ごし方を工夫する。D (2) ア	①必要な材料の適切な選び方・購入の仕方を考える。D (1) イ ②環境に配慮して型紙の置き方を工夫している。D (2) イ ③環境にも配慮して布などの材料を選ぼうとしている。D (2) ア	②必要な材料の適切な選び方・購入の仕方を考える。D (1) イ ②環境に配慮して型紙の置き方を工夫している。D (2) イ ③環境にも配慮して布などの材料を選ぼうとしている。D (2) ア	①季節の変化に合わせて生活の仕方に関心を持ち、環境に配慮しながら快適に過ごそうとしている。D (2) ア ②冬の暖房の仕方について見直し、換気の必要性や環境に配慮して寒さに対処する方法を考える。D (2) ア ③自分にできる環境に配慮した快適に過ごすための暮らしを实践しようとしている。D (2) ア	①環境を配慮した製作を工夫している。D (2) ア
	視点	②環境を考え、油で汚れているものはふき取ってから洗っている。D (2) ア	①環境を配慮した片付けの仕方を工夫している。D (2) ア			

3 検証授業

【指導事例 1】

- (1) 題材名 第6学年「今日の食事は まかせてね」

主な指導内容：「A 家庭生活と家族」(3) ア

「B 日常の食事と調理の基礎」(1) アイ (2) ウ (3) アイウオ

「D 身近な消費生活と環境」(1) イ

- (2) 題材の目標

○一食分の献立を考え、家族に喜ばれるおかずを作ろうとしている。また、材料の有効活用を考え、買い物の仕方を工夫しようとしている。(家庭生活への関心・意欲・態度)

○家族の好みや栄養を考えながら、おかずを工夫する。(生活を創意工夫する能力)

○食材や器具を正しく扱うことができ、安全や衛生に気をつけて調理することができる。

(生活の技能)

○買い方を考え、適切に材料を購入することができ、いろいろな調理の仕方を理解している。

(家庭生活についての知識・理解)

- (3) 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
・家族に関心をもち、これまでに習得した知識及び技能を生かして、家族が喜ぶおかずを作ろうとしている。 ・材料の選び方、買い方に関心をもち、適切に購入しようとしている。	・家族が喜び、家族に合った卵を使ったおかずについて考えたり、食品を組み合わせたりして工夫している。 ・1食分の献立と調理の計画を適切に立てたり、食べる人に喜んでもらったりするために、自分なりに様々な工夫をしている。	・これまでの学習を生かして、調理計画を立て、安全や、衛生に気をつけて、調理することができる。 ・材料を購入するために必要な、品質や価格、購入時期・場所などの情報を収集し、適切に整理することができる。	・食品の選び方や、いろいろな調理の仕方を理解している。

- (4) 指導観

① 題材観

本題材のねらいは、栄養を考えた食事・調理の基礎を学ぶことである。家庭で調理を行うときには、必ず家族の嗜好や生活時間、買い物の仕方等が関連しており、毎日の食事は様々な要因が関わって行われていることに気付かせたい。また、内容Aと関連付けるために、献立を立てる際に家族に振る舞うことを想定させたり、内容Dと関連付けるために、材料をそろえる際、実際どのような買い方をするのか具体的に考えさせたりした。

② 児童観

調理を行うことに対する児童の意欲は高い。調理実習においても、積極的に声をかけ合い、自分のすべきことを考えながら取り組んでいる。

事前調査では、「包丁やまな板の扱い」では 86.9%、「材料の洗い方」では 84%と、多くの児童が自信があると回答している。材料を洗うなど、児童が普段から取り組みやすい内容は、「日常的に実践している」「2, 3回実践した」という回答が多く、家庭での実践の頻度が高いことも分かる。しかし、献立を立てることや、家族が喜ぶおかずを考えたり作ったりすることに関しては、お手伝いとしても経験している児童は少なく、自信があると回答した児童も極端に少ない結果となった。家庭での実践の頻度が高い内容は、児童の自信につながっていると予想される。調理をすることに自信がもてない児童は、授業以外で取り組む回数が少ない傾向がある。

また、調理実習では互いに協力してよく取り組んでいるが、経験が少ないことにより自信がない児童もいることが分かった。

一つでも多く自信をもてる仕事を増やし、自分が家族の一員であることを自覚し、役に立つことを通して児童に満足感を味わわせたい。また、調理の技能を高めることだけを追求するのではなく、食を通して家族との触れ合いや団らんのよさを実感させたい。

③ 教材観

学習課題を習得するためには、家庭での実践が重要である。繰り返し実践する環境を整えるために、家庭との連携を重視して題材を構成した。家族に喜ばれるおかずや献立を計画するために、「インタビューカード」を活用し、常に家族を意識しながら取り組めるようにした。

本題材では、家族に卵料理を振る舞うために、調理実習の時間に自分の考えたおかずを作った。その際、卵の調理方法だけでなく、家族の好みや彩りなどを考慮して付け合わせを選ぶようにし、内容Aとの関連付けを図った。

ワークシートに関しては、他の題材でも形式を統一し、繰り返し学ぶ感覚を得られるようにした。ワークシートの1/2面は家庭での実践カードになっており、学習の見通しをもてるように工夫した。また、記入し終わったワークシートはそのまま掲示できるよう作成し、発表したり掲示をしたりすることで、満足感や達成感を味わうことができるように工夫した。



卵料理

材料：(1人分)

- ・卵 2個
- ・だし汁 1/8カップ
- ・みりん 大さじ1/2
- ・しょうゆ 大さじ1/4
- ・塩 少々
- ・サラダ油 適宜

材料を混ぜる
卵液を少量流し入れ、全体にうすく行きわたらせる。半熟になったら手前から巻いていく。

油を敷く
卵焼き器を熱し、サラダ油を入れ、キッチンペーパーで全体になじませる。

卵液を流し入れる
卵焼き器の空いたところに油を敷く。卵液を流して巻いた卵の下にも卵液を流し入れる。

油を敷き、卵液を流し入れる
卵焼き器の空いたところに油を敷く。卵液を流して巻いた卵の下にも卵液を流し入れる。

手前に巻いていく
卵が半熟になったら、向こう側から手前に巻いていく。同様にして残りの卵液もすべて巻く。形を整えて、完成。



卵料理



スクランブルエッグ

材料を切るように混ぜる
ボウルに卵を割り、自身を切るように混ぜ、塩、こしょう、牛乳を加えてさらに混ぜる。

バターを熱して、卵を流し入れる
フライパンを熱し、バターを入れ、中火でバターがほとんど溶けたら、卵を流し入れる。

卵を炒める
卵を大きくかき混ぜ、半熟になる一歩手前で火から下ろす。余熱で固まりすぎないように注意を。

※参照：資料→おいしい卵料理(社団法人 日本養鶏協会)

(5) 題材の指導計画と評価計画 [全 13 時間] 【内容 A は網掛け、内容 D は太字ゴシック】

【時間】 小題材名	学習内容	具体的な評価規準			
		家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活について の知識・理解
【2】 考えよう 家族が喜ぶおかず	献立ってなんだろう。(1)		・食品の選び方を理解している。(ワークシート)		・一食分の献立を考えるとときに、必要なことが分かる。(ワークシート)
	家族の好みを考え、バランスを考慮しながら献立を立てる。(1) [本時]	・家族に喜ばれるおかずを考えようとしている。(ワークシート)	・家族のために、栄養バランスのよいおかずを工夫している。(ワークシート)		
【10】 工夫しよう 一食分の献立	献立に必要な材料を選んだり、購入したりするときに必要なことを知る。(1)	・材料の選び方、買い方に関心をもち、適切に購入しようとしている。(ワークシート)		・材料を購入するために必要な品質や価格、購入時期などの情報を収集し、整理することができる。(ワークシート)	
	計画に基づいて実習する。(2)	・家族が喜ぶ卵料理を作ろうとしている。(行動観察・ワークシート)		・安全や衛生に気を付けて調理することができる。(行動観察・ワークシート)	
	家庭での実践内容をまとめ、発表する。(1)	・意欲的にまとめ、発表している。(行動観察・ワークシート)	・家庭での実践を分かりやすく、自分なりにまとめている。(ワークシート)		
	主食(ごはん)・汁物(みそ汁)に合う献立を立てる。(1)	・これまでに習得した知識及び技能を生かして、家族が喜ぶおかずを作ろうとしている。(ワークシート)	・食品の組み合わせや、家族の好み、季節、などを考えて、自分なりに工夫している。(ワークシート)		・栄養バランスの良い1食分の献立の立て方について理解している。(ワークシート)
	おかず調理のための計画手順を知り、調理計画を立てる。(1)		・上手な買い物の仕方や、家にある物の利用など、材料の計画的な使い方を考えている。(ワークシート)		・調理に必要な材料の種類、分量や選び方、調理時間などを考えた調理計画の立て方を理解している。(ワークシート)

	調理計画表をもとに、手順や、留意点を確認しながら、実習する。(4)			・調理計画に沿って、安全で衛生的に調理することができる。(行動観察・ワークシート)	
【1】 もっと楽しくしよう 毎日の食事	楽しい食事をするために、どんな工夫ができるのか考え、マナーも学ぶ。(1)		・楽しい食事をするために食品選びや盛り付け、食べる人に喜んでもらうために、自分なりに工夫している。(ワークシート)		・食事は、健康や、体の成長に必要な栄養素を取るだけでなく、家族や親しい人との心のつながりを深めることも、大切な役割であることを理解している。 ・楽しく食事するためのマナーについて理解している。(ワークシート)

各小題材における内容Aと内容Dの関連性について

(基礎的・基本的な習得内容：◎ 視点として踏まえておく内容：○)

小題材名	考えよう 家族が喜ぶおかず	工夫しよう 一食分の献立	もっと楽しくしよう 毎日の食事
時間	2	10	1
A	○	◎	◎
D	◎	○	○

(6) 視点にせまる手だて

① 題材構成の工夫について

家庭で実践し、家族からの言葉をもらうことで、児童は喜びを感じ意欲につながるであろうと考え、内容Aと関連付けた題材構成とした。また、授業の内容を継続して家庭で取り組めるようにしたり、何度でも取り組めるように実践カードを用意したりして、家庭での実践を促す題材の工夫をした。実践カードを提出した児童に関しては、授業内や掲示板などで紹介し、家庭での実践の取組を認めることで、学校でも喜びを感じられる手段として活用した。

また、調理をするためには材料の選び方や買い方も重要であるため、内容Dとも関連付けた。食品の選び方には、鮮度・期限・値段・品質・環境など、様々な判断基準がある。また、同じ価値観をもっていても、家族構成によって買い方が異なる場合もある。同じ物を買うときにも様々な視点から検討することの大切さに触れ、買い物の仕方についても考えさせたい。どのようなものを買うとよいのか、判断力を養うためにも、授業で学ぶだけではなく、でき

るだけ家族と共に品物を選ぶ場面に立ち会うように声をかけた。

② 家庭との連携

授業に先立ち、様々な家庭環境に配慮するため、事前に保護者に授業の趣旨を十分に説明した上で、次のような連携を図った。

「インタビューカード」を使い、家庭で事前調査をさせた。学習する内容を予告したうえで、家族に卵を使った好きな料理や、味の好み、また卵料理をアレンジする際に役に立ちそうな内容を自分で考え調べてくるようにした。この事前調査をすることで、家族のために作ることを常に意識させた。

また、「家庭科だより」を発行し、学校での様子や、児童の取組を掲載することで、授業の進捗に沿って家庭実践を行えるよう、協力を呼びかけた。

「実践カード」には、家族からのコメントを記入する欄を設け、家庭での児童の様子や、家族の感想を記入してもらい、家庭との連携を深める手だてとした。

家庭科 まかせてね 毎日の食卓

インタビューカード

学年 組 名前

次の授業の時には、家族のために、家庭にあった「おまごを使ったおかず」を考えます。そのために、家で家族にインタビューをしてきましょう。

※インタビューした内容は、おまごを考えるときに使います。

おまごの火のとおり加減 はどんなのが好きですか？	半熟たまご
どんな味が好きですか (しょっぱい・甘い・その他)？	しょうゆ味のしょうゆ
どんな味が好きですか (濃い味・薄い味)？	濃い味
卵を使った料理で好きな 料理は何が好きですか？	オムレツ 卵かけごはん オムライス ポテトサラダ
その他(特に何味が好き など、役に立ちそうな技 術をおまごよう！)	卵と豆腐のちゃんぽん (かつおだし風味)

インタビューカード

③ 言語活動の充実

家族へのインタビューでは、自分で質問する内容を考えたり、家族とのやり取りを取り入れたりした。授業では、献立を立てる場面や実習において、グループ活動を頻繁に取り入れ、意図的に話し合いや考える機会を設けた。また、考えた内容や家庭での調理実践の様子を発表するために、事前に発表したい内容をうまく伝える方法を考える機会をそれぞれ設け、言語活動の充実を図った。

④ 評価の工夫

内容A・Dに関わる指導や、評価の観点等について、指導計画や指導案に明記した。

また、ワークシートは、教師用と児童用を作成し、教師用には評価する観点を具体的に記述するとともに、C評価の児童への個別の支援内容やA評価の判断基準を記載して、誰でも評価に活用できるよう工夫した(資料参照)。

(7) 本時【2/13 時間】

① 小題材名 考えよう 家族が喜ぶおかず

② 本時の目標 自分の家族を振り返り、工夫した卵のおかずを考える。

③ 展開

●ゴシック字部分は、今回の研究テーマとの関連を示す。

時間	学 習 活 動	・教師の支援 *評価
導入 5分	○前時の復習をする。	・献立の立て方を確認し、食品の組み合わせ方についても考えることを確認する。
展開 35分	家族が喜ぶ、たまごを使ったおかずを考えよう ○卵料理をアレンジし、家族が喜ぶ料理を考える。 ・絵を描き、具体的にまとめる ・作り方は資料を参考に自分で工夫して考える。 ・今まで習った料理や、作ることのできる料理を確認する。 ・ゆでる→ゆで卵・ポーチドエッグ ・焼く→目玉焼き・オムレツ・だし巻き卵 ・炒める→いり卵・卵そぼろ など ・使うことのできる食品を確認する。 ・野菜→キャベツ・ピーマン・にんじん・ブロッコリー ・加工食品→ハム・ソーセージ・ちくわ・チーズ・ツナ ・調味料→塩・胡椒・醤油・ケチャップなど	●「家族が喜ぶ」をテーマにおかずの工夫をするように指導する。 ・今までに学習したゆでる・焼く・炒める調理のできる料理にするようにする。 ・野菜、加工食品には、火を通すように助言する。 ●インタビューカードを活用するよう指導する。 ・これまでの学習を振り返り、自分たちが調理できるものが分かるようにする。 *家族に喜ばれるおかずを考えワークシートに記入している。【関心・意欲・態度】(観察・ワークシート) ・アレンジのヒントになるように、使うことのできる材料を確認する(学校で扱えるものを中心に例示する)。
	○計画した卵料理に合った付け合わせを考える。 付け合わせの例(粉ふきいも・ブロッコリーの塩ゆで・ミニトマト・コーンソテー)	・付け合わせは、自分で選ぶことを伝える。写真の掲示などで、分かるようにしておく。 ・作り方の参考として各グループに料理の資料を配布する。 *家族に合った組み合わせを工夫している。【創意工夫】(ワークシート)
	○自分の計画したおかずについて、なぜそのおかずを考えたのか、理由を考え記入する。 ○発表する。 ○次時の説明をする。	●家族が喜ぶ理由が記入できるように助言する。 ・児童に発表させ、他の児童の参考となるようにする。 ・表現が明確になっている児童に発表させ、他の児童の参考となるようにする。 ・次回は、調理へ向けて、材料の選び方や買い方について学ぶことを伝える。
		
まとめ 5分		

(8) 板書計画

今日の予定	家族が喜ぶ卵を使ったおかずを考えよう	
1 おかずを考えよう	手順 1、どんな料理があるのかカードをみて確認しよう	月
2 考えたおかずを アレンジしよう	2、作りたい料理を考えよう	
3 発表しよう	3、インタビューカードを参考にアレンジしよう	日
4 ふり返りをしよう	4、付け合わせを選ぼう	

確認 使うことのできる材料の例	確認 料理の仕方と作れる料理	付け合わせ
野菜…にんじん・キャベツ・玉ねぎなど	いためる・・・いり卵・野菜炒めなど	
加工食品・・・ハム・ちくわ・チーズなど	ゆでる・・・ゆで卵・温泉卵など	
調味料・・・塩・しょうゆ・さとうなど	焼く・・・オムレツ・卵焼きなど	

(9) 考察

内容Aを関連付けて行う授業では、インタビューカードの活用が効果的であり、本題材では家族が喜ぶおかずの工夫をスムーズに行うことができた。家族が喜ぶおかずを考えた後、調理実習・家庭での実践と繰り返して体験を重ねた。児童の感想からは、「またやりたい」「次はこうしたい」など積極的な意見や自信を付けた様子が数多く見られ、多くの児童が学校で実習したときよりも上手にできたと記述していた。授業後の家庭実践は、知識や技能の定着にも役立つことが分かった。また、家族に褒められたり、喜んでもらえたりすることにより、児童の意欲や自信につながることを確認できた。

(10) 資料

【資料① 家庭科だより】

The image displays two pages from a publication titled "家庭科だよ" (Home Economics is Fun), dated April 24, 2010.

Left Page:

- Title:** 家庭科だよ
- Date:** 平成24年10月10日
- Author:** 八王子市立宇津木台小学校 家庭科 小作 綾子
- Main Content:** A central illustration of a boy (Kenji) is surrounded by speech bubbles containing his menu ideas for a family meal.
 - Bubble 1: "家族がホーピーなが好きなので。(アレンジして)これ(はんぺんピカタ)にしました。母が、辛いのが好きなので、早めにアレンジしたいです。(2組児童)"
 - Bubble 2: "私の家族は、和風のだしがきいて料理が好きで、じゃがいもならいためにだしを使って、健康度も考えたものにしました。(2組児童)"
 - Bubble 3: "お母さんが、野菜あんかけが好きだから、このメニュー(野菜あんかけオムレツ)にしました。(1組児童)"
 - Bubble 4: "お母さんは、卵焼きが好きで、和風系が好きだから、めんつゆをかければできちゃうので、コンとめんつゆを使いました。(3組児童)"
 - Bubble 5: "家族がみんなから物が好きだし、卵料理だったら、みんな卵焼きが好きと言ったから(卵焼きをアレンジしました)。(3組児童)"
- Text at the bottom:** "大好きな家族への気持ちや、思いやりを感じ取るコメントがたくさんありました。子供たちの考えたおかずは、学校で材料の事や、作り方を一度勉強した後に、実際に家で作り家族に振る舞う予定です。そこで、家庭科よりお願いがあります。一度、学校で、調理実習を行いそれぞれが考えたメニューを作ってみたいと思います。その際、卵や調味料は学校で準備しますが、中に入れる野菜や加工食品については、小さなお弁当箱やタッパーに入れ、持ち寄りをお願いします。準備の段階で、ご迷惑がかかりますがご理解とご協力をお願い致します。

Right Page:

- Title:** 家庭科だよ
- Date:** 平成24年11月1日
- Author:** 八王子市立宇津木台小学校 家庭科 小作 綾子 No.2
- Main Content:** A student's reflection on their practical home economics lesson.
 - Paragraph 1:** "調理実習が終わりに約2週間経ちました。実習では、思い通りに作れた子、そうでなかった子、作ってみて新しい発見があった子など、感じたことは様々なと思います。始める前に、「今日は、一から十まで自分一人で作らないといけないので、よく考えて協力や分担をしよう」と話しました。作る内容がばらばらというのは初めてのことで、正直少し心配をしていましたが、いざ実習になると、みんな立派で、いつも以上に考えながら一生懸命取り組んでいる姿がありました。成長を感じます。また、「試食したい!」という声があったので、友達の手伝いを試食してみました。友達の料理を見た人、食べたりして、「うしろのほうがもっと良いよ!」とか「これすごくおいしい!」など、自然と話合いが行われ、情報交換の良い機会となりました。自然と学ぶ姿勢ができているところに感心しました!
 - Paragraph 2:** "さて、今週末・水曜日が家族に振る舞う宿題の提出期限でしたが、出されたプリントを見ると、子供たちの活きた姿が手に入るようにになり、大変うれしく思っています。家族の方々のたくさんのコメントありがとうございました!"
 - Paragraph 3:** "今日は、学校の実習・家庭での実践を通して、自分なりに「こうしたらいい!!」「こうしてみようかつた!!」などの工夫が光った子たちのコメントを紹介したいと思います。
- Comments Box:** Three boxes contain specific comments from students.
 - Box 1:** "良い味だったが、料理の中に、野菜が入っていたので、今度は、具の量を減らしたら、うまくいったので、良かったです。(2組児童)"
 - Box 2:** "今度は、早めにチーズを入れたら、トロトロになりました。あつた人もおいしかったです。このメニューにして良かったです。(3組児童)"
 - Box 3:** "私が作ったものは、好きさ物ばかりで、家業(バランスや、いろいろ)を考えていなかったのと、次作るときは、できかたのことでも頑張りたいです。(1組児童)"
 - Box 4:** "学校で、調理した時より上手でできた。人にじんを多くくれたら、さらに見えたら。(2組児童)"
 - Box 5:** "学校で作ったものより、うまくできました。学校では、しゃげなかったら、水をけっこりしたので、うまくいった。(3組児童)"

まかせてね！今日の食事

10月4日(木)

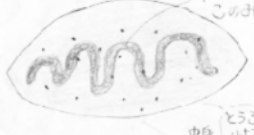
家族が喜ぶ卵を使ったおかずを作ろう！

6年 1組 名前: [redacted]

メニュー(オリジナルの料理名を考えてみよう)

ぶくらぶらとろのオムレツ

絵をかこう



全体が
かき屋味
全部と一緒にまぜる

中身
とろ、少なめ

材料

- 卵 1個
- だし汁
- 塩 少々
- バター (40g程度)
- とろ、お好み

作り方

1. まず卵をわけて片乳とかつおだしとろを(水も少し)を少しまぜて、フライパンにバターをぬいてまぜた卵とバターをつまみながら煮る。しほを作ります。最後塩としょう油を少々いれます。

まかせてね！今日の食事

10月25日(木)

たべてね！オリジナル卵メニュー

6年 1組 名前: [redacted]

作った日

10月25日(木)

写真を貼るか、絵(色づき)をかこう



材料の準備の仕方をかこう

卵 6個

とろ、少し

12月 味付け 醤油

調理にかかった時間をかこう

約 70 分

感想

学校で作ったオムレツと家で作ったオムレツは全然味が違いました。6人で材料が足りなくて、もう少しでいいかな。料理するのって、結構楽しいですね。

【資料② 調理実習での試作と、ワークシート】

【C児童への支援】

インタビューカードを参考にして、考えた料理のどこに家族が喜ぶポイントがあるのか、具体的に考えるよう伝える。

教師用

まかせてね！今日の食事

家族が喜ぶ卵を使ったおかず

6年 1組 名前: [redacted]

メニュー(オリジナルの料理名を考えてみよう)

絵をかこう

材料

- 卵 1個

作り方

1.

[関心・意欲・態度]



今日の振り返りをしよう

調理実習の振り返りをしよう(変更があれば、赤ペンを使って書き直そう)

この料理にした理由は・・・

A 家族のために積極的におかずを工夫しようとしている。

[創意工夫]

まかせてね！今日の食事

たべてね！オリジナル卵メニュー

6年 1組 名前: [redacted]

作った日

月 日 ()

写真を貼るか、絵(色づき)をかこう

材料の準備の仕方をかこう

調理にかかった時間をかこう

分

感想

[関心・意欲・態度]

おうちの方言

先生より

【資料③ 教師用ワークシート】

- 15 -

【指導事例2】

(1) 題材名 第6学年 「家族も喜ぶ 生活を楽しむ物を作ろう」

主な指導内容：「A 自分の成長と家族」 (1) ア
「C 生活に役立つ物の製作」 (3) アイウ
「D 物や金銭の使い方と買物」 (1) アイ

(2) 題材の目標

- 生活に役立つ物の製作に関心をもち、自分の家庭生活をよりよくする物を製作する活動を通して、家族のために活用していこうとする。 (家庭生活への関心・意欲・態度)
- 家庭生活をよりよくすることについて課題をもち、布を用いた物の製作を通して、形・大きさ・手順・目的に応じた縫い方などを工夫する。 (生活を創意工夫する能力)
- 布を用いた物を製作する活動を通して、必要な用具を安全に取り扱い、製作することができる。 (生活の技能)
- 製作に必要な材料や用具、目的に応じた縫い方、用具の安全な取り扱い方を理解している。 (家庭生活についての知識・理解)

(3) 題材の評価規準

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
・家族のことを考え、布を用いた生活に役立つ物の製作に関心をもち、製作し、活用しようとしている。	・布を用いた、家族も喜ぶ生活に役立つ物の製作について考えたり、自分なりに工夫したりしている。 ・物や金銭の計画的な使い方と適切な買い物について課題を見付け、その解決を目指して考えたり、自分なりに工夫したりしている。	・布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。 ・物や金銭の計画的な使い方と適切な買物に関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。	・布を用いた生活に役立つ物の製作に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

(4) 指導観

① 題材観

本題材では家庭生活に役立ち、生活をよりよくする物を作ることで、児童が家族のために作る喜びや共に使う楽しさを味わえるようにしたい。そのために内容Aと関連付けて、「自分や家族の生活に役立つか」、「どのような場面で使うのか」など使用する目的を明確にして計画を立て、製作できるようにする。

また、内容Dとの関わりとして製作する物に応じた布の選び方、買い方、そして環境に配慮した材料選びや布の使い方などをじっくり考えさせたい。

② 児童観

これまでの学習で手縫いやミシン縫いによるマスコット、マスコットクリップ、クッション、あずま袋の製作をしてきた。そのため簡単な手縫いやミシンの直線縫いはできるようになってきている。そして、これらの学習を通して簡単な作品を作り、自分で作り上げる喜びを味わったことで、もっといろいろな物を作りたいという意欲が高まっている児童も見られる。

③ 教材観

家族のことを考えた製作ができるようにするために、「家族にインタビュー」や「使ってみたよ 私たちの作品」というカードを活用する。

また、インタビューや材料の準備、製作に当たって家庭の協力を得るために「家庭科だより」を発行する。

製作については、ランチョンマット、バッグ（トートバック、エコバッグなど）、エプロン、ウォールポケットなど製作の段階標本を活用する。材料選びでは布標本を班ごとに用意する。

5年

「はじめてみよう

ソーイング」

初めての手縫いでデザインから縫い方まで考えて製作

6年

「おめでとう

金沢小60周年」

周年に向けて製作
マスコットの中に洗濯
ばさみが入っている。

これまでに作った作品



マスコット



マスコット
クリップ



クッション



あずま袋

5年

「わくわく ミシン」

着なくなった衣類やお気に入りの布で自分でデザインしたクッションを製作

6年

「お風呂バッグを作ろう」

日光移動教室に向けて
製作

※各題材名は金沢小独自のものとなる。

(5) 題材の指導計画と評価計画 [全 12 時間] 【内容 A は網掛け、内容 D は太字ゴシック】

【時間】 小題材名	学習内容	具体的な評価規準			
		家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
【3】 考えよう 家族も喜ぶ生活を楽しめる物	自分の生活を振り返り、家族と楽しく使える物は何か考える。	・自分や家族の生活に関心を持ち、生活に役立つ物を考えている。 (観察・ワークシート)	・家族のことを考え、製作したい物を決めている。 (観察・ワークシート)		
	不織布で試し作りをし、具体的な製作計画を立てる。		・家族のことを考え、形や大きさを工夫することができる。 (観察・ワークシート)	・不織布を使って大きさや形などを確かめ、製作計画を立てることができる。 (ワークシート・観察)	
【8】 形にしよう わたしの思い	試し作りの不織布を見ながら、型紙を作る。			・作品に合った型紙を作ることができる。 (観察・型紙)	
	作品に合った材料を具体的に選び、買い物の計画を立てる。		・自分や家族で使う目的を考えながら工夫して買い物計画を立てている。 (観察・ワークシート)	・目的に合った材料を選ぶことができる。 (観察・ワークシート)	
	製作計画をもとに工夫して製作をする。	・家族のために製作する喜びを味わいながら、課題をもって製作に取り組んでいる。 (観察・ワークシート)		・ミシン縫いや手縫いにより、目的に応じた縫い方ができる。 (観察・作品)	・大きさの決め方、布の裁ち方、しるしの付け方、目的に応じた縫い方が分かる。 (ワークシート・作品)
【1】 使って確かめよう わたしの作った物	作品を家庭で使ったことを発表する。	・自分が作った作品を家族とともに活用する喜びを味わい、これからも進んで製作しようとしている。 (観察・ワークシート)			・物を長く大切に活用することについて理解している。 (ワークシート)

各小題材における内容 A と内容 D の関連性について

(基礎的・基本的な習得内容：◎ 視点として踏まえておく内容：○)

小題材名	家族も喜ぶ生活を楽しむものを考えよう		形にしようわたしの思い			使って確かめようわたしの作ったもの
時間	1	2	1	1	6	1
A	◎	◎	○	◎	◎	◎
D	○	○	○	◎	○	◎

(6) 研究の視点にせまる手だて

① 題材構成の工夫

家族と共に使う、家族へプレゼントするという視点から製作することで児童は喜びを感じ、製作に対する意欲にもつながると考え、本題材を内容Aと関連させた。家族へのインタビューや製作した物を実際に使ってみた家族の感想は、製作に対する喜びや自分への自信につながると考えた。

また内容Dとの関連として、材料の集め方についても計画をし、各自で準備する機会を設けた。購入する際には目安となるように使用できる金額に上限を設定した。上限の額は、児童が移動教室でお土産を購入する際、実際に使ったことのある2000円という金額を目安として、製作する物の材料購入予算を1500円に設定した。この予算の中で、製作する物やその使用目的に合った布等の材料を選び、適切な物の選び方、買い方を考えるようにした。材料については家庭にあるものをリユースすることも大切であることにも気付くことができるように、学習時に意見交換の場を設定した。

② 家庭との連携

授業に先立ち、様々な家庭環境に配慮するため、事前に保護者に授業の趣旨を十分に説明した上で、次のような連携を図った。

製作に当たり材料等の用意などを家庭へお願いすることがあるため予告編の「家庭科だより」を発行した。そして、学習前にはインタビューカード「家族にインタビュー」を配布し、製作に当たり、児童が家族や家庭生活を意識しながら取り組めるよう工夫した。

また、製作後の作品紹介や発表会について報告する「家庭科だより」を発行し、家庭と連携する手だてとした。

③ 言語活動の充実

製作する物を考えたり、製作計画を立てたりする際、自分の考えを文章にまとめる場面や、グループや全体での話し合いの場面を設けた。また発表会では、聞く人に伝わるように意識させながら使った感想などを言葉にする機会も設け、言語活動の充実を図った。

④ 評価の工夫

既習事項である基礎的・基本的な技能を活用して、家族を思い、具体的な使用目的などを考えて製作する物を決めたり、材料を選んだりすることができること、製作した物を活用することで生活が豊かになることに気付くとともに、作る楽しさや日常生活に活用する喜びを味わうことができるように、ワークシートの工夫や児童の学習観察を行った。

また、内容A・Dに関わる指導や評価を指導計画や指導案に明記した。さらに、教師用のワークシートには、評価する観点とともに、C評価の児童への個別の支援内容、A評価の判断基準等も記載し、より評価に活用しやすいように工夫した。

(7) 本時 【1/12 時間目】

① 小題材名 家族も喜ぶ生活を楽しむ物を考えよう

② 本時の目標

自分や家族が使う目的を考えながら、工夫して作りたい物を考える。

③ 展開

●ゴシック字部分は、今回の研究テーマとの関連を示す。

	学習活動	・教師の支援 *評価
導入 5分	○手縫い、ミシン縫いで作った作品を振り返る。 ＜手縫い＞ ＜ミシン縫い＞ ・マスコット ・クッション ・マスコットクリップ ・あずま袋	・これまでの学習で製作した物の写真を提示し、振り返るよう伝える。
	○学習課題を知る。	・学習の流れ表を提示し、どのように学習を進めていくかを伝える。
	家族も喜ぶ 生活を楽しむ物を考えよう	
展開 30分	○「家族ヘインタビュー」で分かった家族が欲しい物とその理由を発表する。 ・ランチョンマット ・エプロン ・バッグ（トートバック、エコバッグなど） ・ウォールポケットなど	●学習前に課題として出していた「家族ヘインタビュー」をもとに、どのような物を家族が欲しいと感じているか理由と共に発表するように伝える。
	○作りたい物を決め、ワークシートに記入する。	・製作時間が6時間だということを伝える。 ●予算は1500円以内であることを伝える。
	○家族が喜ぶポイントを書く。 ・ランチョンマット→食事が楽しくなる。 テーブルが明るくなる。 ・エプロン→おいしい料理を作る。 ・バッグ→買い物のときに袋をもらわずにすむ。 ・ウォールポケット→家族に届く手紙を見やすく分けておける。	●「家族ヘインタビュー」で分かったことも参考にするよう伝える。 ●誰が、どのような時に使いたい、具体的に場面を考えるよう助言する。 *自分や家族の生活に関心を持ち、生活に役立つ物を考えている。 【関心・意欲・態度】（観察・ワークシート） *家族のことを考え、製作したい物を決めている。 【創意工夫】（ワークシート）
		

ま と め 10 分	○作りたい物とその作品の家族が喜ぶポイントをグループ内で発表し、全体で発表する。  ○本時の振り返りをする。 ○次時の学習予定を知る。	・リーダーを中心に発表するように伝える。 ・全体発表では挙手した児童を指名し、同じ物を製作する予定の児童にも挙手するよう伝える。  ・友達のよいところも書くよう伝える。 ・次回は試し作りをして、製作計画を立てることを伝える。
-----------------------------------	---	--

(8) 板書計画

家族も喜ぶ 生活を楽しむ物を考えよう						
学習の流れ						
時間 学習内容	1 作るものを考える	2～3 試し作り 製作計画	4 型紙作り	5 材料を考える ※予算 1500 円	6～11 製作 6時間	12 作品発表会 ※3学期 冬休みに使 ってみよう
作るもの ・ランチョンマット ・エプロン ・トートバッグ ・エコバッグ ・ウォールポケット				家族が喜ぶポイント ・お揃いのランチョンマットで食事することが楽しくなる。 ・新しいエプロンでおいしい料理がたくさんできる。 ・一緒にお料理をしたい。 ・会社の中で必要な物だけを持ち運びできる。 ・買い物のときに袋代がかからない。 ・お財布にも地球にもやさしい。 ・電話のまわりがすっきり。 ・家族の手紙が整理できる。		

(9) 考察

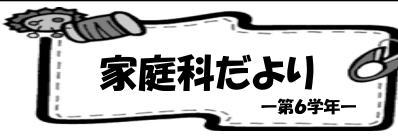
これまでも「生活を楽しむ物を作ろう」という題材で内容Dを意識した材料選びや材料の使い方の学習を含めて進めてきた。今回の「家族も喜ぶ」という内容Aを関連付けたことで、児童の中に「家族と一緒に使いたい」「家族にプレゼントしたい」「こんな色が好きだからこの色の布で作りたい」など、家族を思いやる気持ちが自然と現れてきた。

自分ではなく家族へ、もしくは家族と共に使う作品であるということから、学習に対する意欲付けにもなった。より丁寧にひとつひとつ大切に仕上げようとする態度で製作に取り組んでおり、内容Aを関連付けたことによる効果が見られた。

内容Dに関しては、材料選びにおいて予算を明確にしたことで、「買わないという選択肢もある」という5年生の買い物の学習での既習事項も生かすことができ、さらには材料を無駄に使わないようにしようという意識も出てきた。

また、この学習が進められた背景には、家庭での実践について保護者の協力を得られるように、学級担任と連携したことがある。今後も、保護者に対しては「家庭科だより」を通して学習の進捗や状況をお知らせし、連携を継続していきたい。また、学級担任とも学習のことや児童のことなど連絡を密にしながら連携をしていきたい。

(10) 資料



家庭科だより
—第6学年—

平成 24 年 10 月 16 日
板橋区立金沢小学校
家庭科 木津 紫

くふうしよう 楽しい食事

これまで夏休みの親子クッキングから6年生はゆでる、いためる、焼くという調理方法で一人一品のおかず作りにチャレンジをしました。
初めてのおかず作りに緊張しながらも友達とペアで協力している様子が見られました。
今後は作ってみたおかずをいれた献立作りにチャレンジしていきたいと思います。
夏休みの親子クッキングから実習の材料のご用意までご協力のほどありがとうございました。

家族も喜ぶ 生活を楽しむ物を作ろう

今月末から6年生はミシンでの製作の学習に入っていきます。
今回は『家族も喜ぶ 生活を楽しむ物を作ろう』という題材で製作をします。
そのため、子供たちがご家族の皆さんにどのような物が欲しいか、どんな時に使うかなどのインタビューを学習前に行いますので、ご協力お願いいたします。
また材料については、11月上旬に必要な物を子供たちと学習の中で決めていきます。製作には学芸会明け（11月27、28日）に入っていきますので、材料のご用意をお願いいたします。
お忙しい中、大変申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

作品例



ランチョンマット



ウォールポケット



トートバッグ

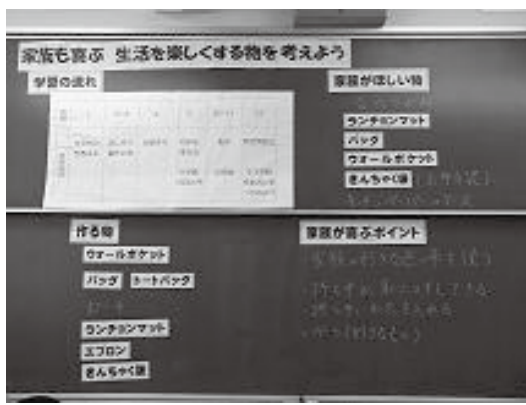


エプロン

◎近隣の手芸店

- ・○○○○ ○○店 ○F
- ・○○○○ ○○店
- ・○○○○

資料① 学習前に配布した「家庭科だより」



本時の板書



インタビューカードを見ながら、
製作するものを考えている様子

家族も喜ぶ 生活を楽しくする物を作る

6年 組 ()

家族から家族のみんなも喜んでくれるもの（ランチョンマット、トートバッグ、エプロン、ウォールポケットなど）の製作計画をしましょう。

どんなものがいいか家族の方々にインタビューしてみましょう。

インタビューした人			
欲しい物			
理由			
どんな時に使うのかな			
色、もよう			
大きさ			

役立ちメモ（どんな風に作るの？というアドバイスを聞いてみよう）

家族も喜ぶ 生活を楽しくする物を作る

6年 2組 ()

次回から家族のみんなも喜んでくれるもの（ランチョンマット、トートバッグ、エプロン、ウォールポケットなど）の製作計画をします。

どのようなものがいいか家族の方々にインタビューしてみましょう。

インタビューした人	母	妹	
欲しい物	ウォールポケット	ぬいぐるみのスカートとリボン	
理由	細かい物を整理したいから	洋服が揃ったから	
どんな時に使うのかな	かみのものぐらやピンを入れるため	遊んでいるとき	
色、もよう	まがせる。	水玉、ホレース	
大きさ	小さいポケットか何個かついている物	ぬいぐるみにあったサイズ	

役立ちメモ（どんな風に作るの？というアドバイスを聞いてみよう）

・ポケットにマチをつけてほしい（なるべく）

資料② インタビューカード

家族も喜ぶ 生活を楽しくする物を作る

6年 組 ()

家族も喜ぶ 生活を楽しくする物をつくろう

こんなもの作りたいな

※絵に書いてみよう

誰が使うのかな？

【C児童への支援】

インタビューカードの家族が欲しいと思っているものなどを参考に考えるよう伝える。

関心・意欲・態度

これを作ってみよう！家族が喜ぶポイントはね・・・

今日の振り返りをしよう。

・家族が好きな色・柄を使うという工夫が参考になった。

・ポケットの形を入れやすい形にするとという意見が参考になった。

上記のような友達の見解を参考にしているもの

家族も喜ぶ 生活を楽しくする物を作る

10月26日（金）

6年 2組 ()

家族も喜ぶ 生活を楽しくする物をつくろう

こんなもの作りたいな

ウォールポケット

※絵に書いてみよう

誰が使うのかな？

お母さん

どんな時に使うのかな？

糸田かい物を整理した時

これを作ってみよう！家族が喜ぶポイントはね・・・

ポケットにマチをつけるを入れやすくなるし、落ちついた色ともよく似合う。

今日の振り返りをしよう。

家族が好きな色を使うという工夫が参考になった。

・家族が好きな色を使うという工夫が参考になった。

・ポケットの形を入れやすい形にするとという意見が参考になった。

上記のような友達の見解を参考にしているもの

マチをついたポケットはいろいろと入れやすくて、便利なものになると思う。

好きな色、柄など、ぜひ参考にしてください。

資料③ 本時ワークシート

VII 研究の成果と課題

1 成果

内容Aや内容Dを意図的に関連付けた課題提示によって、基礎的・基本的な知識及び技能の定着や日常における実践化につながった。そして、工夫して実生活に活用できる児童の育成、家庭生活や家族の大切さに気付き、家族の一員として自ら考え実践する児童、環境に配慮した身近な物の選び方、買い方、使い方を理解し実践する児童の育成をすることができた。研究の視点に沿った具体的な成果は次の通りである。

(1) 題材構成の工夫

各題材に内容Aと内容Dを関連付けた題材の構成を行うことで学習したことを児童が自分の生活に結び付けて考えたり、生かしたりしやすいようにした。児童の学習意欲、家庭実践が高まり、環境に配慮した身近な物の選び方、買い方、使い方につながった。

(2) 家庭との連携

家庭科だよりを通して、各題材の終末や長期休業前に実践カードを配布し、家庭での実践を促すようにした。学習したことを家庭でもう一度実践して、家族に喜んでもらったり、認めてもらったりすることで、成長した自分が児童の喜びとなっていた。学習前の家族へのインタビューカードは、家族・家庭と学習課題をつなげていく上で効果的だった。

(3) 言語活動の充実

学習課題の取組の前後に言語活動の場面を設定した。他の児童の考えを知り、学習を共有することができた。振り返りの中では、意見交換を通して児童の思考が深まっている様子が見られた。

(4) 評価の工夫

基礎的・基本的な知識及び技能の習得を明確にする評価として、指導計画や指導案に評価規準を記し、ワークシートにも、どの部分で何を評価するのかを明確にした。児童の具体的な姿を明確にすることによって、学習課題の達成状況を教師が把握し、指導することができた。

2 課題

家庭科で学んだことを、家庭での実践に結び付けるためには、限られた指導時数の中で繰り返し、効果的に指導していくことが必要である。二年間を見通し、内容A・内容Dをその他の内容と関連付けた題材構成、題材配列、題材開発の研究が更に求められる。

評価については題材ごとの評価規準と評価計画をより具体化していくとともに、ワークシートにおける評価の観点の位置付けを明確にし、更に学習に効果的なものを工夫していくことが求められる。

また、基礎的・基本的な知識及び技能をさらに定着させるためには、家庭での実践が必須である。家庭や学級担任と連携しながら、家庭での実践の継続化を図るために、家庭科だより、実践カードの効果的な活用がさらに求められる。

今後、今回の研究成果について、児童の変容を数値的に検証していく必要がある。

平成24年度 教育研究員名簿

小学校・家庭

地区	学 校 名	職 名	氏 名
文 京 区	窪 町 小 学 校	主任教諭	村上 律子
板 橋 区	金 沢 小 学 校	主任教諭	木津 紫
練 馬 区	北 町 小 学 校	主任教諭	○今川 文子
八王子市	宇津木台小学校	教 諭	小作 綾子

○世話人

[担当] 東京都教職員研修センター企画部企画課

指 導 主 事 田村 砂弥香

東京都教育庁指導部指導企画課

統括指導主事 宮 嶋 淳 一

平成24年度
教育研究員研究報告書

小学校・家庭

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕
平成25年 3月

編集・発行	東京都教育庁指導部指導企画課
所在地	東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号	(03) 5320-6882
印刷会社	株式会社 イマイシ